別　紙

スマートシティの推進に向けた取り組みについて

KAKOGAWA SMART CITY PROJECT

加古川市
株式会社日建設計総合研究所
株式会社日建設計
日本電気株式会社
綜合警備保障株式会社
株式会社フューチャーリンクネットワーク
株式会社システムリサーチ

加古川市について

県下最大の一級河川「加古川」が市の中央部を流れる東播磨地域の都市

人　口：259,298人
世　帯：108,151世帯
総面積：138.48平方キロメートル
（令和4年1月1日時点）

安全・安心のまちづくりに向けた取り組み

■ 多様化や凶悪化する犯罪の多発

- 安全・安心は市民にとって最大の関心事のひとつ
- 「加古川市に住んで良かった」と思うことができる安全・安心のまちづくりの推進
  （１）犯罪の抑止
  （２）事件・事故（交通事故含む）の早期解決
  （３）子ども等の居場所確認による安全確保

見守りカメライメージ

見守りカメラ告知看板

■ 見守りカメラ

- 平成29年度、平成30年度に小学校の通学路や学校周辺を中心に見守りカメラを1,475台設置

■ 見守りサービス（官民協働事業）

- 見守りカメラに同梱された見守りＢＬＥタグ検知器が複数社のBLEタグを検知し、位置情報履歴をアプリやメールで確認
- 公共施設、公用車、郵便車両にも検知器を設置

ALSOK見守りタグ

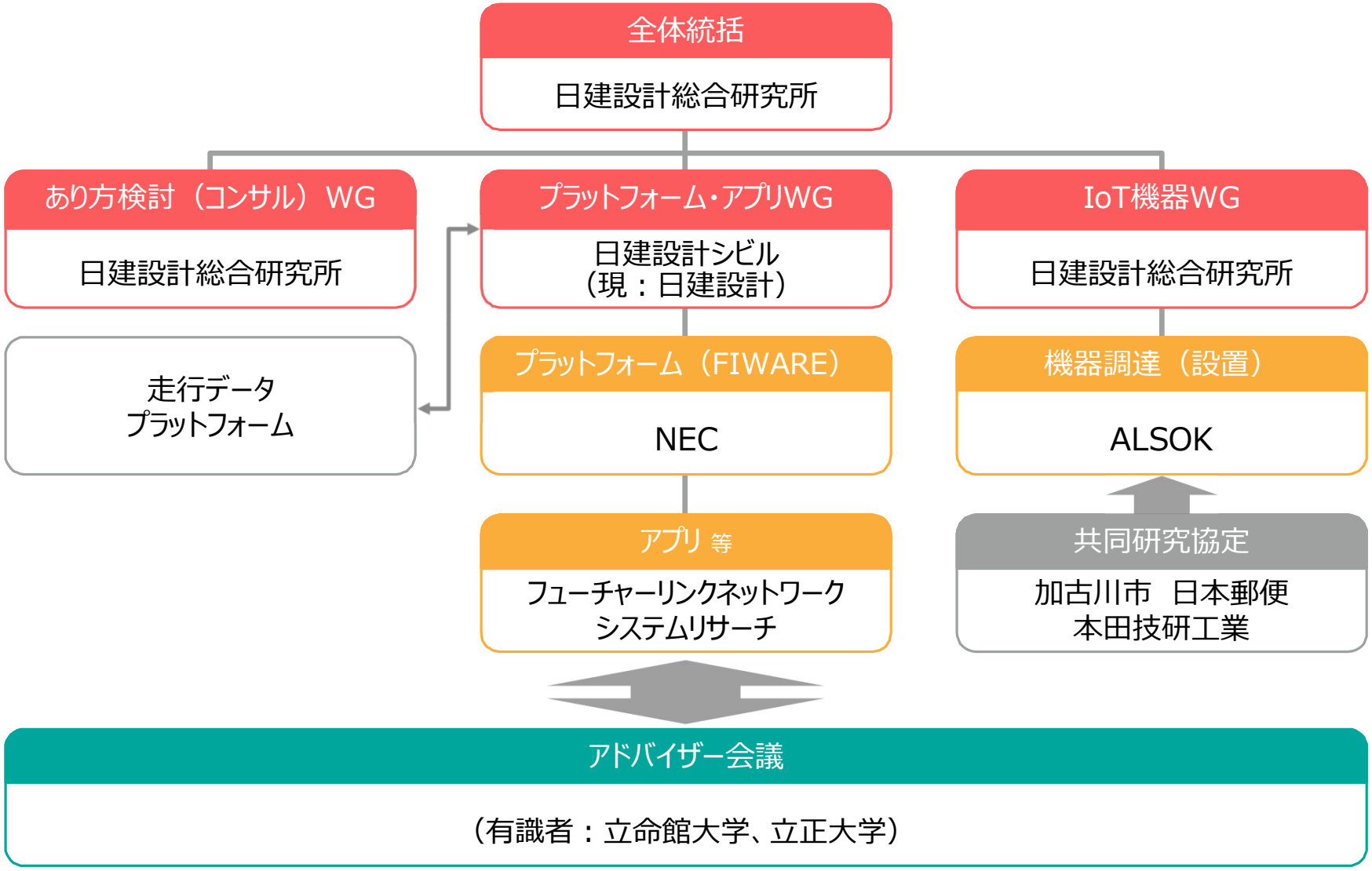
まちなかミマモルメ

見守りカメラ設置場所（赤点箇所）

H29年度データ利活用型スマートシティ推進事業【全体取組イメージ】

■ 先行事業（見守りカメラ）と連携した日本初の官民連携見守りサービス導入

H29年度データ利活用型スマートシティ推進事業 【実施体制】

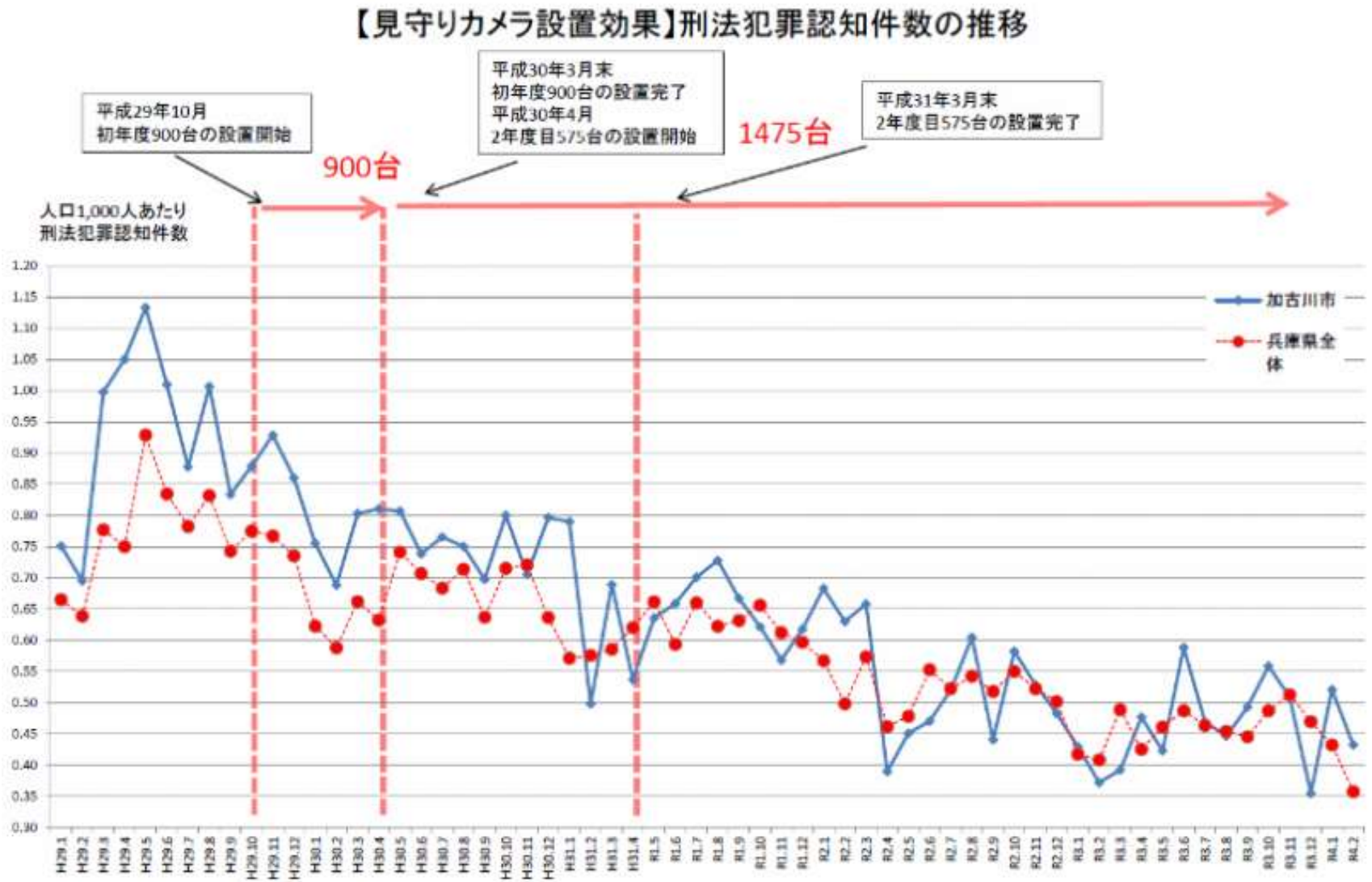


H29年度データ利活用型スマートシティ推進事業 【官民連携による見守りサービス】

■ 見守り検知機能を搭載したかこがわアプリを活用した見守りサービス

【事業効果】刑法犯罪認知件数の推移（H29.1～R4.2）

令和３年の刑法犯認知件数は平成２９年と比較して半減！



加古川市スマートシティ構想

基本理念

誰もが豊かさを享受できる スマートシティ加古川
～「幸せを実感できるまち加古川」の実現に向けて ～

スマートシティ推進の5 原則

（1）透明性とプライバシー保護（Transparency & Privacy）
データの利活用にあたっては、市民の皆さんのプライバシーの保護に十分な配慮を行います。また、市の意思決定過程における透明性の確保に努めるとともに、設置する機器に対するプライバシーリスクの潜在的な影響や脅威を評価したうえで設置します。

（2）安全・安心・回復性（Safety, Security & Resiliency）
自然災害、不慮の事故、情報セキュリティなどによる障害が発生した場合でも、最低限の機能が維持しながら、早期に回復できる能力を確保するように努めます。

（3）相互運用性とオープン性（Interoperability & Openness）
ICT技術導入の際は、システム間において様々なデータに接続することが可能となる相互運用性を担保しながらエコシステムの実現を図ります。また、データが広く社会において適正に使用されるように、組織間の壁を意識せずデータ利活用が最大限に行われるように努めます。

（4）公平性、社会的包摂、社会的影響（Equity, Inclusion & Societal impact）
あらゆる人材が能力を最大限発揮し、やりがいを感じられるような社会を実現するために、サービスや機会損失を発生させず誰一人取り残さないように努めます。また、その社会への影響を評価し、市民生活の向上と環境保全に努めます。

（5）運用面と財政面の持続可能性（Operational & Financial Sustainability）
スマートシティの実現においては、運用面・財政面の両方から持続可能でより効果的・効率的な事業であることを確認しながら実装するように努めます。

スマートシティ推進の基本目標

基本目標1 【市民】 市民のQOLや利便性を向上するサービス
① いつでもどこでもできるストレスフリーな行政手続の実現
② 誰にでもやさしい窓口環境の実現
③ 欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信
④ 安心して子育てをできるまちづくり
⑤ 高齢者にやさしいまちづくり
⑥ GIGAスクールの推進（デジタル教育）
⑦ 行政情報の見える化

基本目標2 【まち】 都市機能の強化や都市課題の解決
① 快適に移動できるまち
② 安全・安心のまちづくり
③ 災害に強いまちづくり
④ にぎわいのあるまちづくり
⑤ インフラの整備及びメンテナンス

基本目標3 【行政】 デジタル行政の推進
① 情報のデータ化によるスムーズな窓口対応
② 最新技術による徹底した業務効率化
③ どんな時も業務継続を可能とする体制づくり
④ 多様なデータの利活用による新たな行政サービスの実現
⑤ スマートシティアーキテクトの育成

加古川市版Decidim

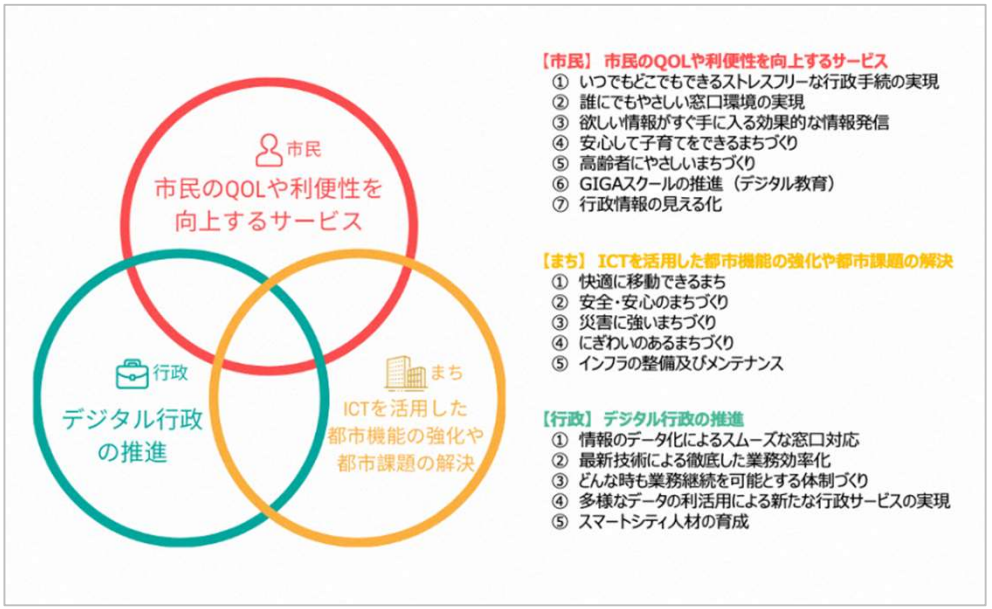
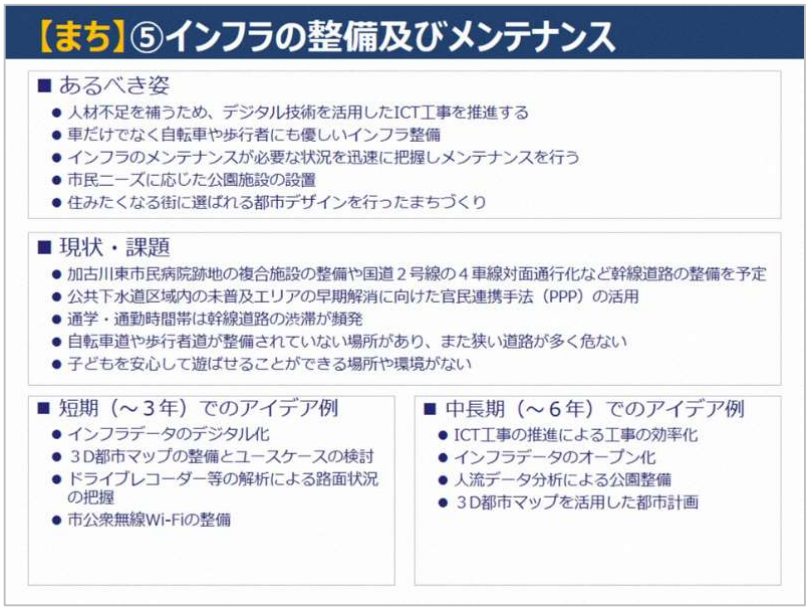
■ 加古川市のスマートシティ
- 市民中心、市民のQOLを上げることを目的
- ICTの導入や都市OSを入れることではない
- 市民の同意を得ながら見守りカメラを設置した

■ さらなる市民サービスの向上
- 市民とのエンゲージメントの強化を行う
- 幸福度をベースとした指標の導入
- 参加型予算編成、住民参加による計画づくり

■ 「オープン＆チャレンジ」を掲げ市政運営

■ 2020年10月15日 Code for Japan と協定を締結
- 住民対話・参画を促す「DIY都市」の考えに基づいた
  スマートシティ推進のための活動に関すること
- 人材の育成に関すること
- データを活用した地域の課題解決に関すること

Decidimの活用事例　スマートシティ構想の策定

■ スマートシティ構想策定に利用（試行運用）

- ３ジャンル、１７項目について意見聴取
- ３月のスマートシティ構想公表に向けて、３つのフェーズを活用
  - アイデア収集フェーズ（スマートシティ構想の各目標における概要に対して、意見・アイデアを収集）
  - 意見収集フェーズ（アイデア収集フェーズの意見を参考に作成した構想案について意見を収集）
  - パブリックコメント（１月～２月）